

現在の状況は、不景気で先行きが厳しいことから、未利用の土地に増設は難しい状況にあります。

質問 広野工業団地が売却している中、新たな工業団地建設の計画は全くないのでしょうか。工業団地を建設するまでは行かなくとも、未利用町有地を活用しての企業誘致もできると思っています。

町長 新たな雇用の場の確保と町有地の有効利用を図るため、昨年度より既存の工業団地に隣接した約1・2haの町有地を活用して、団地の拡張を行うための調査を実施し、現在、設計を進めており、来年度には造成をして企業誘致を積極的に進めて参りたいと考えております。

質問 企業誘致だけが雇用問題の解決手段とは思いませんが、人口が減少傾向にある今、人口増加には雇用拡大は避けて通れないと思えます。雇用拡大の手だてをどのように考えているか、また、現在行っている雇用拡大の手だてがあれば教えてください。

町長 工業団地の企業には雇用の確保などのお願いに努めております。昨年には雇用拡大の施策として、広野町立地促進条例を制定し、優遇措置として、正社員を雇用した場合には、奨励金を支給する制度を設けました。また、雇用拡大の事業展開として、昨年に引き続き、雇用創出セミナーを開催し、いろいろな雇用

に関する問題、雇用できる環境づくりについて話し合いの場を設け、雇用拡大に努めております。

新妻 玲奈 議員

特別老人ホーム建設について



質問 特別養護老人ホームが建設されると聞き、すばらしいことだと思っております。その特別養護老人ホームについてお聞きします。いつ着工・完成し、いつから利用できるようになるのでしょうか。また定員は40床と伺っていますが、今後さらに高齢化が進む中で入所希望者を十分に対応できるのでしょうか。

町長 特別養護老人ホーム建設については、福島県及び広野町から新しく設立した社会福祉法人 養高会に対して財政支援をおこない、社会福祉法人 養高会が下北迫字東町地区高野病院北側に鉄筋コンクリート造り平屋建て、定員40人の規模で平

成21年7月から建設に着手、現在平成22年2月の完成を目指して工事が進められております。

また、施設の名称は「花ぶさ苑」と定められ平成22年4月のオープンを予定しております。

特別養護老人ホーム「リリー園」は、広野町と楢葉町が協力して定員90人（長期80人、短期10人）で整備した施設です。現在の施設に入所を希望して待っていたいただいている方は、82人でその内広野町民は15名でありますので現時点では希望に応えられるものと考えています。今後も施設入所希望待機者への対応は、出来る限りの方策を講じていきたいと考えております。

半澤 悠司 議員

新型インフルエンザについて



質問 新型インフルエンザの予防事業として、役場や学校、社会福祉

協議会関係、高齢者世帯等の人数分を準備しているようですが、消毒液も含め、配布の実態のご説明をお願いします。

町長 町では、新型インフルエンザ対策用として、マスクや速乾性手指消毒液などの備蓄を進めております。新型インフルエンザが発生した場合の緊急対応用として、第2学期の開始にあわせて、マスク及び速乾性手指消毒液を学校や幼稚園などに配付いたしました。その主な配付状況については、児童生徒数やクラス数を考慮して、マスクについては、小学校4、000枚、中学校3、000枚、幼稚園250枚、児童館、保育所には各100枚、また、速乾性手指消毒液（1リットル入り）は、小学校16本、中学校11本、幼稚園5本、児童館、保育所には各2本となっております。また、これ以外に教育委員会、保育所などにおいてもマスクや消毒液を準備して予防に努めております。

質問 人が集まる駅などへの設置は考えていますか。

町長 町が設置・管理する主な公施設については消毒液などを配置して予防に努めておりますが、民間の施設については、その施設の設置者や管理者において準備していただきたいと考えております。

澤村 有希 議員
住みやすい広野について



質問 先月、「地域学習に関するアンケート」が実施され、次のような結果になりました。

- 広野は「好き」……………↓68人
- 広野は「好きではない」↓19人
- 広野は「住みやすい」……………↓32人
- 広野は「住みにくい」……………↓55人
- 10～15年後
- 広野に「住んでいる」……………↓11人
- 広野に「住んでいない」↓76人

「住みにくい」理由に、買い物をするとき必要な物が買えず不便である。電車の本数が少なく、いわきなどに行くのが不便。郊外から中心地に行くのに休日は町民バスもなく不便などがありました。「住んでいない」理由には、買い物不便。交通面で不便の他に希望する職種が広野

に住んでいては無理、だから別のところに住むといったものがありありました。自然がたくさんある広野地域の人がとても温かい、町の人が優しい、近所や回りの人が優しいなどという理由で「広野が好き」だという人が8割近くいる中で、逆に10～15年後「住んでいない」と思う人が9割近くいる現状をどう考えますか。また、そのような中、地元に残り活躍する人が1人でも多くなるような政策などあれば教えてください。

町長 広野中学校において実施された「地域学習に関するアンケート」において、「広野が好きだ」と答えた8割近くの人のうち、10～15年後「広野町に住んでいない」と答えた人が9割近くいるという結果を大変残念に思っております。こうした背景として、雇用や住環境などの理由が考えられますが、これは当町のみならず、日本全国の地方における共通の課題であると理解しております。

町では、まちづくりの基本である「広野町町勢振興計画」に基づき各種施策を進めて参りました。現在、平成23年度を初年度とした今後10年間のまちづくりの方向を示した「第4次広野町町勢振興計画」の策定に取り組んでいます。この中で、「町民に対するアンケート」を実施するとともに、町民の代表からなる策定協議会において、町民ニーズの把握、必要な施策の検討をして参りたいと

考えております。

「住みやすい広野」の実現については、言葉を変えれば「定住促進」、「人口増加」を図ることであり、施策的には「雇用の確保」「雇用の創出」が第一であり、2次的に商店街の活性化や生活インフラの整備など住環境の充実を図ることが必要であると考えております。また、本行われた「第45回衆議院議員総選挙」において「民主党政権」が誕生し、政治

が大きく変わろうとしております。道州制の問題や地方分権の在り方など地方自治における課題が山積しておりますが、当町においてもこうした動きや情報収集に努めながら、迅速に対応して参りたいと考えております。そして、今後とも町民の皆様と対話を通して、町民誰もが住みやすいまちづくりに努め、みなさんと一緒に、みなさんが誇れる素晴らしい町を創っていききたいと思っております。

